

手術前患者が入院前に抱く不安へのアプローチ ～外来受診時に写真入りパンフレットを配布し不安の軽減をはかる～

キーワード：入院前の不安、手術、パンフレット

A棟6階北病棟

○森下 由佳里

川北 純子

I. はじめに

現在、F病棟では手術を受ける患者に、外来受診時に必要物品が書かれた用紙を配布するよう外来と連携している。

近年、入院期間の短縮に伴い手術前日に入院する患者が多く、手術前オリエンテーションも手術前日に実施することとなる。

昨年の先行研究で、パンフレットに写真を使用することで手術前オリエンテーションがスムーズになり、手術の不安を軽減することがわかった。しかし、手術の前日入院という時間制約がある中でのオリエンテーションに、患者から改善を求める意見が聞かれた。また、パンフレットの記載内容の簡易化について要望があった。そこで今回、術前術後の経過と状態について要点を簡潔に記述し、写真と組み合わせたパンフレットを外来受診時に配布した。患者が改良型パンフレットを活用し周手術期に関する知識をもつことで、入院前の不安が軽減できたかを知るため、この研究に取り組んだ。

II. 目的

手術を受ける患者に、入院以前から手術に関するより詳しい情報を知識として提供することで、入院前の不安を軽減する。

III. 研究方法

1. 調査期間

2009年8月17日～10月30日

2. 調査対象

調査期間中に入院し、F病棟で予定手術

を受けた20歳代～70歳の患者60名

3. 調査方法

1) 手術が決定した患者に、改良型パンフレットを外来受診時に配布する。

2) 患者が入院した時点で、外来で配布した改良型パンフレットに目を通したかどうか、また手術に関する不安についてのアンケートを行う。

3) 病棟用の写真入りパンフレットを用いて、手術前日に看護師が手術前オリエンテーションを実施する。

4) 手術後、外来受診時に配布した改良型パンフレットが不安軽減に役立ったかどうかアンケートを行う。

手術前のアンケートは、外来で配布したパンフレットがどの程度の不安軽減に役立ったのか知るため、手術前オリエンテーションを実施する前に限定した。手術後のアンケートは、術後どのような不安が軽減し、パンフレットの有効性を認識できたか患者の率直な意見を反映できるように術後2日目または3日目とした。

4. 回収方法

術前・術後ともに、アンケート用紙はその日の担当看護師が配布することとし、回収は病棟に設置した回収箱へ投函してもらうよう説明した。

5. データの分析方法

アンケート結果の単純集計

6. 倫理的配慮

プライバシーを保護するため無記名方式とした。調査用紙に研究主旨を明記し、調

査結果は本研究以外には一切使用しないこと、調査に参加しない場合も今後の治療・看護に不利益は一切生じないことを説明し、同意を得た患者にアンケートを記入してもらった。

IV. 結果

手術前のアンケートの回収人数は44名で回収率73%、有効回答率は40名(93%)であった。年齢は、20歳代1名(3%)、30歳代8名(19%)、40歳代15名(37%)、50歳代6名(15%)、60歳代5名(13%)、70歳代5名(13%)で、平均年齢は49.95±13.99歳であった(図1)。外来で配布した改良型パンフレットは、有効回答40名全員が読んだと回答した。

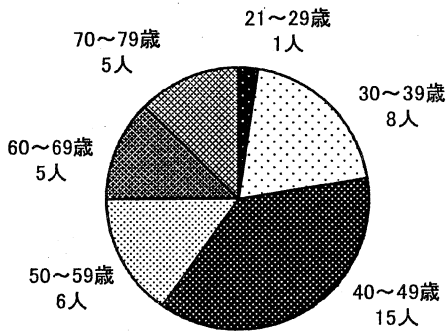


図1 年齢

「必要物品」に不安があると回答した28名(70%)のうち、27名(96%)が、不安は軽減したと回答した(図2)。

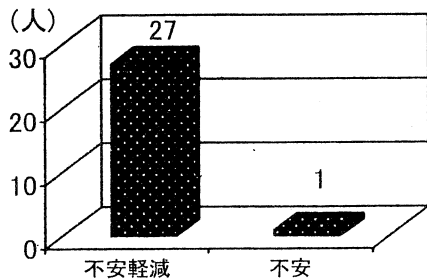


図2 必要物品

「必要物品の購入方法」に不安があると回

答した26名(65%)のうち、25名(96%)が、不安は軽減したと回答した(図3)。

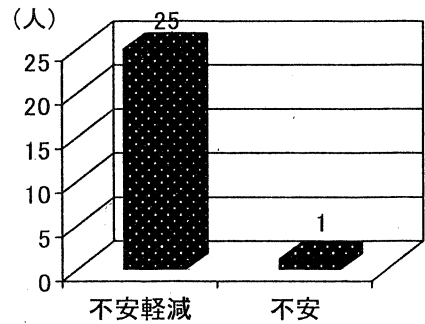


図3 必要物品の購入方法

「手術室入室までの手順」に不安があると回答した24名(60%)のうち、15名(63%)が、不安は軽減したと回答した(図4)。

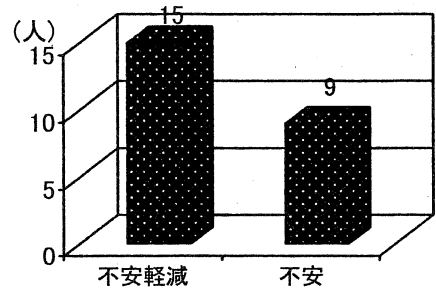


図4 手術室入室の手順

「入院から手術までのスケジュール」に不安があると回答した28名(70%)のうち、13名(46%)が、不安は軽減したと回答した(図5)。

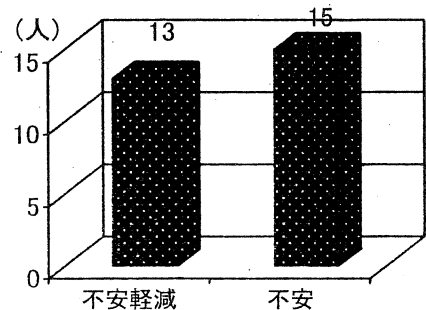


図5 入院から手術までのスケジュール

「手術直後の状態」に不安があると回答し

た 28 名 (70%) のうち、10 名 (36%) が、不安は軽減したと回答した (図 6)。

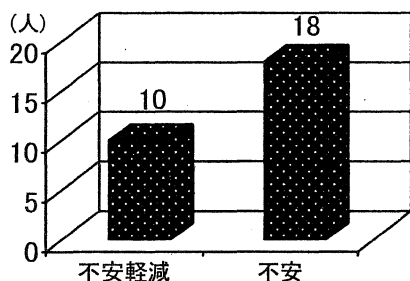


図 6 手術直後の状態

「手術後の経過」に不安があると回答した 29 名 (72%) のうち 7 名 (24%) が、不安は軽減と回答した (図 7)。

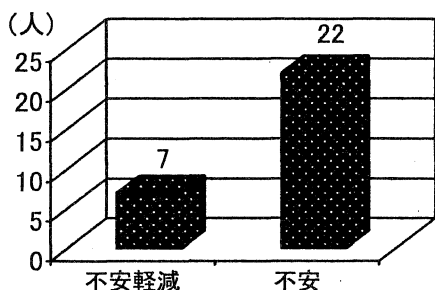


図 7 手術後の経過

それぞれ年代別に不安内容の差があるか、SSPC のカイ 2 乗検定を用いたが、有意差はみられなかった (表 1)。

	p 値
必要物品	0.172
必要物品の購入方法	0.172
手術室入室の手順	0.241
入院から手術までのスケジュール	0.125
手術直後の状態	0.125
手術後の経過	0.22

表 1 年代別に不安内容の差があるか (p < 0.05)

手術後のアンケートの回収人数は 43 名で回収率 71%、有効回答数は 40 名 (95%) であった。平均年齢は 50.08 ± 15.223 歳であった。

外来で配布した改良型パンフレットを、入院前に読んだと回答した患者は 38 名 (95%) であった (図 8)。

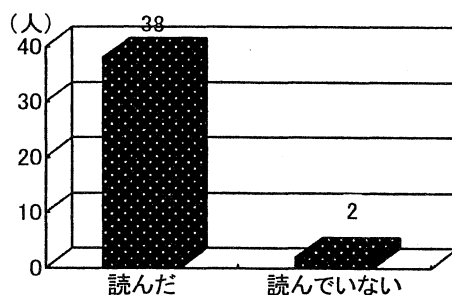


図 8 改良型パンフレットを読んだか

全員が、改良型パンフレットが不安の軽減に役立ったため、読んでよかったと回答した。入院後の手術前オリエンテーションがわかりやすかったと回答したのは 37 名であった。

パンフレットを入院までに読まなかったと回答したのは 2 名であった。1 名は読んでおいたほうが手術前オリエンテーションをスムーズに理解できたと思うと回答した。もう 1 名は、看護師からの手術前オリエンテーションで十分であるとの回答であった。

V. 考察

まず、手術が決定した患者に外来で改良型パンフレットを配布することで、患者に早期から手術の情報を提供することができると言える。

術前のアンケート結果より、「必要物品」「必要物品の購入方法」に不安がある患者の 95% 以上、「手術室入室までの手順」に不安がある患者の 63% が、不安は軽減できたと回答しており、パンフレットが効果的であったと言える。岡堂ら¹⁾は「手術決定の宣告を受け、その手術日が近づくにつれて、不安は増大する。患者自身が手術を容認するまでの期間は、特に不安度は高まっている」と述べている。手術が決定した患者に、外来でパンフレットを配布し、患者に早期から手術に関する情報を

提供し、知識をもって手術前オリエンテーションを受けることで、不安へのアプローチと軽減をはかることができたと考える。

深谷ら²⁾は「手術に対する不安は①手術に関する漠然とした不安②手術時および術後に対する不安③麻酔に対する不安④死への不安」と報告しており、手術患者の多くは、術中・術後への不安を解消できずに手術を受けていると言える。そのため、アンケートの結果でも「手術直後の状態」や「手術後の経過」については、不安に感じている患者が多かったのではないかと考えられ、術後は特に日々の対応の重要性を認識し、丁寧に関わっていく必要がある。

手術後のアンケート結果では、患者の多くが、入院前に改良型パンフレットを読むことが不安の軽減に役立ったと回答した。小島³⁾は「患者にとって、予測と経験の間の食い違いが少ないほど、苦痛、苦悩が少ないことが実証されている」と述べている。手術前から予め知識を持ってオリエンテーションを受けた患者は、手術への予測と経験がより近づき、術後活用できたと考えられる。

今後も外来で改良型パンフレットを配布し、不安軽減に努めていく。

VI. 結論

- ・外来からの改良型パンフレットを用いた情報提供は、手術までの不安軽減には効果的であった。
- ・入院前に予め知識を持って手術前オリエンテーションを受けたことが、不安の軽減に繋がった。

謝辞

今回の研究にあたり御協力、御指導いただいた師長、主任、アドバイザーをはじめ病棟スタッフの皆様に深く感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 岡堂哲雄、鈴木志津枝：危機的患者の心理と看護、中央法規出版、1987
- 2) 深谷浩美、他：婦人科手術の術前、術後の、オリエンテーションの再検討（不安調査をもとにして）、下館市民病院誌 10、2000
- 3) 小島操子：手術患者の看護、看護 MOOK・No.10、金原出版、1984